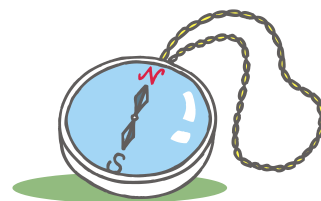


羅 針 盤

第 **37** 号 令和5年（2023年）3月6日（月）



◆ 区切りはあっても終わりはない

今年も気がつけばすでに3月となりました。「光陰矢の如し」という言葉を身に染みて実感できるほど月日の経過が早いように感じます。3年生の皆さんは卒業式に向けて残り一週間余り、1・2年生の皆さんも後3週間も経たずに修了式の日を迎えることとなります。3年生にとっては「卒業」という大きな人生の節目であり、1・2年生についても「進級」に向けての節目を迎えることとなるわけです。この一年間で、年度当初より予定されていた大きな学校行事もそれぞれに大きな成果を修め、コロナ禍での影響がなかったわけではありませんが、無事に終了することができてきました。さて、今年度の終わりが近づき、学習活動も学級活動もまとめとなる時期となりました。3学期も終了して、年度の区切りの時となっていきますが、振り返ってみて、生徒の皆さん一人ひとりにとって、この一年間はどのような一年間だったでしょうか。努力した結果としての確かな手応えであったり、達成感のある充実した学校生活を過ごすことができてきたでしょうか。せっかくの機会でもありますから、生徒の皆さん一人ひとりのそれぞれが、真剣に自己と向き合い、今一度点検する時間を設けてもらえればと考えます。まずは、当たり前のことが当たり前にできる人として、生徒会の後期目標にも示されていた「挨拶革命」について、日ごろから「挨拶できる人」として成長することができてきたでしょうか。あるいは、これまでも幾度となく繰り返しお話ししてきたこととして、「人の話をしっかりと聴くこと」や「学校のきまりやルールを守ること」などもできてきたでしょうか。不十分なことがあれば、自分自身の努力不足であったことを発見し、これからどのように補っていけば良いのかを検討すべきであると思います。どのようなことでも、課題を解決し、達成できた時の喜びはかけがえのないものへとになっていくはずで。そして、また新たな課題がみつかっていくものです。人としての成長を忘れない限り、区切りはあっても終わりはありません。夢や目標の実現に向けて、努力を積み重ねていってもらいたいと思います。



◆ 3粒の種

暦のうえでは、今日からは啓蟄（けいちつ）です。大地が温まって、冬眠をしていた土の中の虫たちが、春の陽気に誘われて穴から出てくる季節となったということです。春へと季節は移り行き、種蒔きをする季節も近づくしてきました。種蒔きと言えば、生徒の皆さんは「3粒の種」という言葉を知っているでしょうか。「1粒は空を飛ぶ鳥のために、1粒は土の中にいる虫のために、残りの1粒は人間のために。」といったことを表した言葉で、鳥や虫が安全に生きていくことができないような環境の中では、人間にとっても本当に健康で安心な作物をつくることはできなんでしょうという「共生社会における戒め」を問いかけている言葉です。人間は誰もが一人で生きていくことは難しいことでしょう。自分さえ良ければという戒めの言葉でもあり、周りの人たちは当然のことながら、自然や生物の恩恵を受けて生きているということをこの言葉から感じてもらいたいと思います。

